



第14回 多世代交流複合施設「アンダンチ」編

古今東西  
くんぐん  
行きます!

郡市長がさまざまな現場を訪問し  
市民の皆さまの活動の様子な  
どをお伝えします

昨年7月に若林区なないろの里に  
開所した多世代交流複合施設「アン  
ダンチ」にお邪魔して、新しい福祉  
の形にチャレンジする皆さんに、お  
話を伺いました。

施設を一つの街として

「アンダンチ」は、高齢者住宅と介  
護施設を中心に、保育園、レストラン、  
障害者就労支援施設など、多様な機能  
を備えた複合型施設。防災集団移転先  
の一つであり新旧の住民が共に新たな  
まちづくりを進めるこの地域で、アン  
ダンチは、高齢者、障害者、  
子どもなど多様な人々が利  
用し、住民が交流する場にも  
なっています。福祉の枠  
や世代を超えた地域共生型  
のまちづくりを行う企画が  
評価され、仙台市の「ビジ

ネスグランプリ2018」大賞も受賞  
されており、開所したらぜひ訪れたい  
と思っていました。仙台弁で「あなた  
の家」を意味する「アンダンチ」では、  
子どもたちのしゃぐ声が響き渡り、  
入居する高齢者が共有スペースの暖炉  
を囲んでおしゃべりするなど、地域交  
流の新しい形を見た思いです。

仙台から新しい福祉を

地域への福祉施設の開放は、全国的  
にも例がない先進的な取り組み。「住民  
が気軽に交流できる場を作ることが新  
たな地域のコミュニティー形成に重要  
だ」と思い、イベントを企画したり、ス  
ペースの貸し出しを行ったりしていま  
す」と、アンダンチを運営する福井大  
輔さん。この日同席してくださった金  
沢和樹さんは、福祉事業の若手経営者  
で組織する「NPO法人まちあす」で福  
井さんと共に副代表を務め、保育士の  
子連れ出勤を認める保育園を運営する  
など、新しい発想をどんどん取り入れ  
ているそう。「昔からの福祉の良いこ  
ろは残しつつ、今の時代に合ったやり  
方を取り入れていくことが必要」との  
言葉に、仙台から福祉を変えようとの  
熱意が感じられてとても頼もしいです。  
玄米を使用した和食レストラン「い  
ろは」店長の岩間学さんは、「社会との  
関わりが希薄になりがちな高齢者や障  
害者が、地域とつながるといこうコン

プトに共感しました」と出店の理由を  
話されます。地元食材の活用や食に関  
する講座の開催など、地域と積極的に  
関わる取り組みを紹介してくれました。  
「介護を続ける方の苦勞や認知症への  
不安など、地域の人が気軽に悩みを話  
し合える場ができればと考えていたと  
ころ、福井さんが快く場所を提供して  
くれました」と、大和蒲町地域包括支  
援センターの村澤美代子さん。「助け  
合い、支え合える地域づくりを広げて  
いきたい」と語ってくださいました。  
福井さんは、「アンダンチは、子ども  
たちと高齢者などが自然に触れ合い、  
多世代がつながる場にもなります。こ  
れからも地域に何が必要か考え続けたい  
」と力強く話してくださいました。

多世代が交流する街に

少子高齢化や地域のつながりの希薄  
化が言われて久しいですが、これらの  
課題に向き合い、若い方々のネットワ  
ークや新しい発想、他業種との協業な  
どにより解決を目指すまちづくりに、  
私も期待してい  
っぱいです。  
こうした取り  
組みが他の地  
域にも広がっ  
ていくよう、  
応援してい  
ます!



▲前列左から村澤さん、市長。  
後列左から岩間さん、福井さ  
ん、金沢さん